

一定なリズムは知覚時間が長い：心理物理学的研究
(研究の成果発表)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金長, 幸希, 宮崎, 真 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026646

一定なリズムは知覚時間が長い：心理物理学的研究

金長幸希（情報学専攻），宮崎真（学術院情報学領域）

我々が知覚する時間は時計のように一定ではなく，様々な要因によって変化する（例：刺激の大きさ，明るさ，数の大きさ）．本研究は，音刺激のリズムの一定性が知覚時間に与える影響を報告する．本実験の参加者は，先行して呈示された標準刺激系列（刺激数：17）と比べて，後に呈示された比較刺激系列（刺激数：11 - 23）が「長い」か「短い」か判断した．刺激系列における刺激間時間間隔について，一定条件（39.375 ms）と変動条件（12 - 66 ms）を設定した．実験の結果，一定条件の方が変動条件よりも刺激系列の知覚時間が長くなった．神経エネルギーモデル（Eagleman & Pariyadath, 2009）は，刺激を受容した時の神経の活動量が大きいほど知覚時間が長くなると説明している．これに基づき，本実験で見出した現象の機序を考察する．

<既発表情報>

Kannaga, K., Miyazaki, M., “Constant stimulus intervals elongate subjective duration of the auditory stimulus sequence,” The 48th annual meeting of the Society for Neuroscience, November 2018. (口頭発表)

金長幸希, ” 時間間隔の不変性は知覚時間を延長させる：心理物理学的研究”, 第27回運動学習研究会, 名古屋, 2018年7月. (口頭発表)

金長幸希, 宮崎真, ” 一定リズムによる知覚時間の延長：心理物理学的研究”, 情報学ワークショップ2018：地域とともに発展する情報学, 浜松, 2018年7月. (ポスター発表)

金長幸希, 宮崎真, ” 刺激の不変性による主観的時間の延長：心理物理学的研究”, 第41回日本神経科学大会, 神戸, 2018年7月. (ポスター発表)

金長幸希, 宮崎真, ” 一定なリズムは知覚時間を延長させる：心理物理学的研究”, 第16回情報学ワークショップ, p25, 名古屋, 2018年11月. (ポスター発表)

金長幸希, 宮崎真, ” リズムの一定性は知覚時間を延長させる”, 日本基礎心理学会第37回大会, p92, 川崎, 2018年12月. (ポスター発表)